

今月の特集は小児ぶどう膜炎です。一般小児科雑誌としてはかなり奇抜なテーマと思われるかもしれませんが、しかし私自身、実際に特集記事を拝読し、稀だが慢性に経過し失明に至ることもある疾患として、また、比較的なじみのある全身疾患に合併する眼病態として、小児科医が心の片隅に留めておくべき疾患であることを改めて実感いたしました。本特集をお読みいただいた先生方にも、「眼科にお任せすべき病気」という先入観を捨てていただけたら幸いです。

3名の眼科の先生方には専門家としてのお立場から、眼科と小児科の連携の重要性について語っていただきました。まず吉岡栄依子先生には、疫学と臨床の特徴についておまとめいただき、多施設共同研究に基づくガイドライン作成への期待を述べていただきました。水内一臣先生はサルコイドーシスを例に、自覚症状がないまま慢性炎症が持続する病態についてご説明いただき、定期的な眼科受診の必要性を強調されています。さいごに大野重昭先生には、若年性特発性関節炎に合併する若年女子の慢性虹彩毛様体炎について解説していただき、失明者を少しでも減少させたいという熱い思いを語っていただきました。

小児科医のお立場からは、柳原剛先生には症状が非特異的で診断が困難な TINU 症候群について、ぶどう膜炎に加えて、進行性の腎機能障害の病態について分かり易くご説明いただきました。また、安村

純子先生には若年性特発性関節炎という我々にとっても比較的なじみの深い疾患の初期診療の手引きをご紹介いただき、その中で定期的な眼科診察による早期対応の重要性について述べていただきました。

その他、友田明美先生には脳科学者としてのお立場から子ども虐待が脳に残す深刻な爪痕と育児困難に悩む親たちを社会で支える“とも育て”の重要性について述べていただきました。家族性高コレステロール血症診療ガイド(土橋一重先生)、アレルギー発症予防と離乳食の進め方(福家辰樹先生)はまさに日常診療にすぐに役立てていただける内容と思います。

佐野 正先生は開業医のお立場から「大規模停電」というユニークな切り口で現代社会がいかに脆弱な電力供給基盤の上に成り立っているかを力説していただきました。小林靖明先生には総合病院の小児科医と産科医の連名というかたちで、産科医療補償制度の対象となるべき子どもたちの一部が受益者となる機会を逸している現状についてご経験をまとめていただきました。最後に「連載」では、日本医科大学小児科学教室の先生方に血液疾患に関する最新知見を分かり易くまとめていただきました。

今月も、様々な話題について、多様な切り口で、異なるお立場の先生方にご執筆いただくことができました。この場を借りて御礼申し上げます。

(高橋 孝雄)

編集：伊藤保彦・中西敏雄・岡部信彦・清水直樹・高橋孝雄（ABC 順）

小児科

第 61 巻 第 6 号 5 月号

2020 年 5 月 1 日発行（毎月 1 回 1 日発行）

定価（本体 2,700 円＋税）

年間購読料金

定価（本体 42,100 円＋税）

〔年間 13 冊（増刊号、増大号を含む）の誌代〕

〔年間予約購読者に限り送料無料〕

※別冊は年間購読に含まれません※

発行所 金原出版株式会社

発行者 福村 直樹

〒113-0034 東京都文京区湯島 2-31-14

Tel 03(3811)7165〔雑誌部直通〕

Tel 03(3811)7184〔営業部直通〕

Fax 03(3813)0288

<http://www.kanehara-shuppan.co.jp>

振替口座 00130-1-191269

印刷所 三報社印刷株式会社 Tel 03(3637)0005

広告申込先 福田商店 Tel 06(6941)5600

・本誌に掲載する著作物の複製権、翻訳・翻案権、上映権、譲渡権、公衆送信権（送信可能化権を含む）、貸与権、二次的著作物への利用に関する原著作者の権利は、金原出版株式会社が保有します。

・**JCOPY**＜出版者著作権管理機構 委託出版物＞

本誌の無断複製は著作権法上での例外を除き禁じられています。複製される場合は、そのつど事前に、出版者著作権管理機構（TEL：03-5244-5088、FAX：03-5244-5089、E-mail：info@jcopy.or.jp）の許諾を得てください。